

経営比較分析表（平成29年度決算）

福島県 泉崎村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	68.89	83.95	3,618	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,519	35.43	184.00
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,344	26.10	204.75

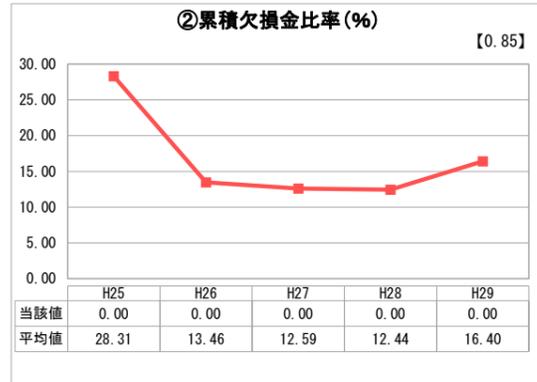
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

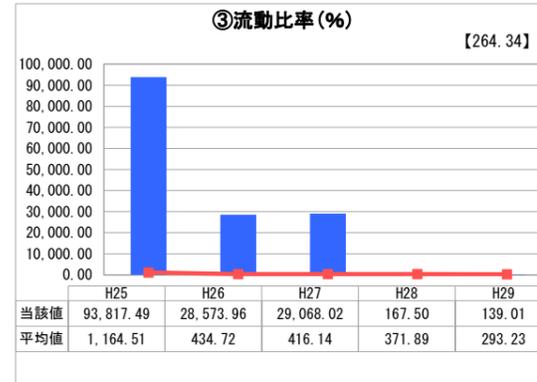
1. 経営の健全性・効率性



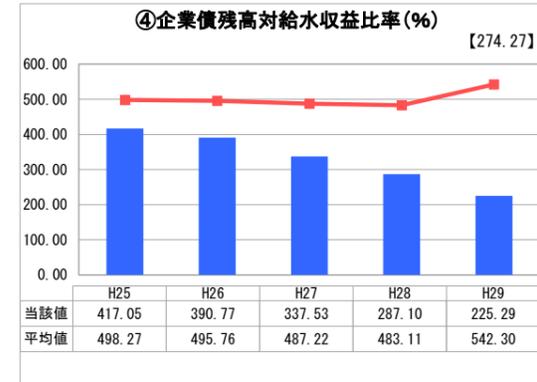
「経常損益」



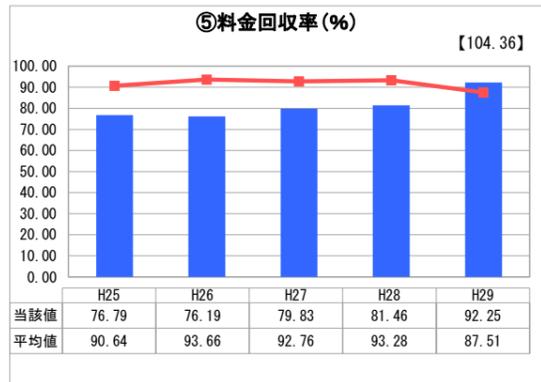
「累積欠損」



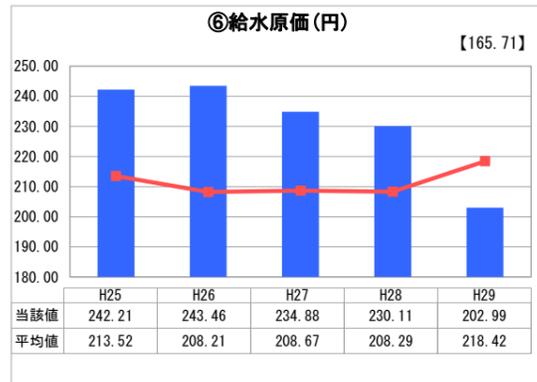
「支払能力」



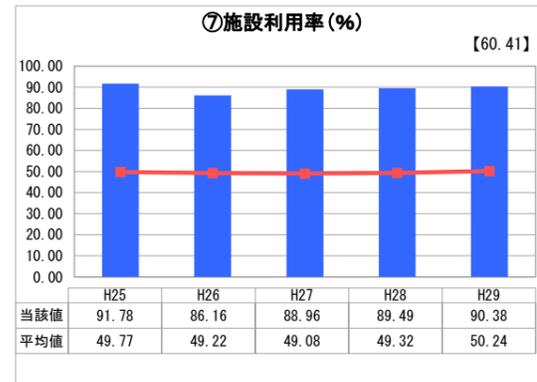
「債務残高」



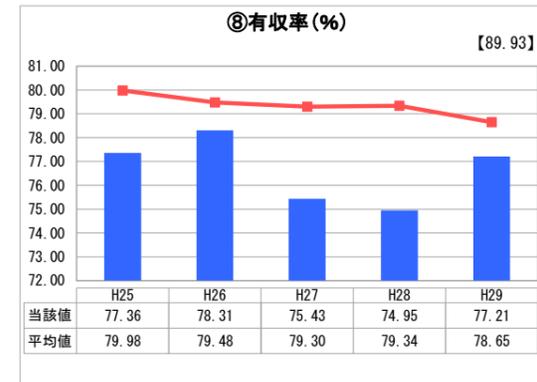
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

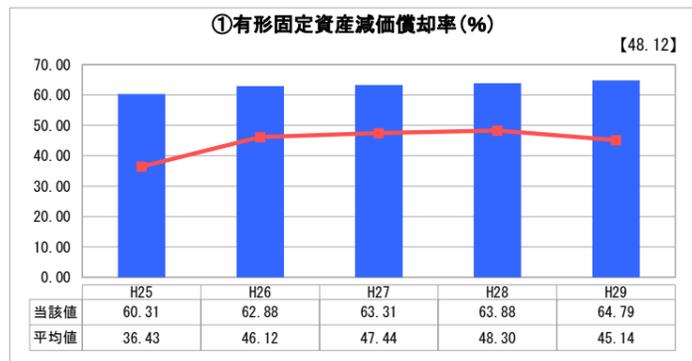


「施設の効率性」

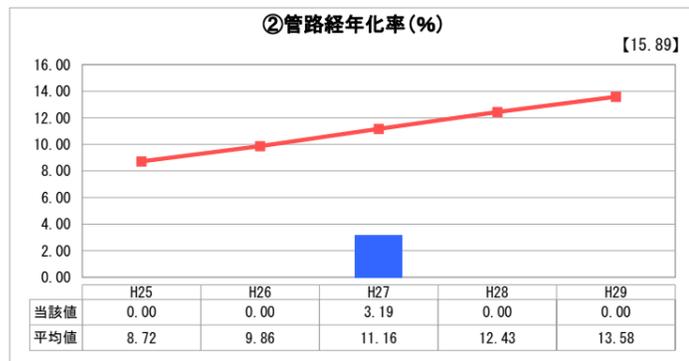


「供給した配水量の効率性」

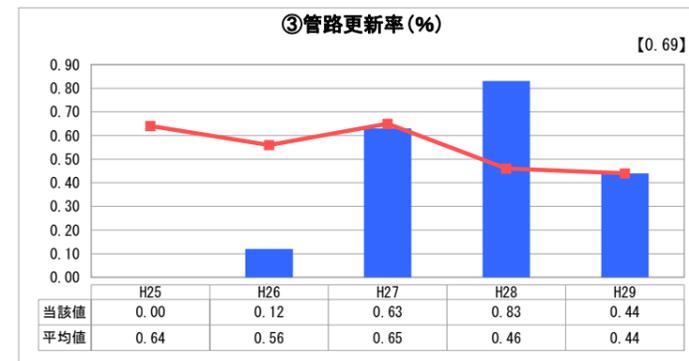
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金もなく、経営自体は非常に安定しており、健全性を保っていると思われる。
一方で料金回収率及び給水原価も改善されてきたが、なお一層の経費節減及び料金回収に努めていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

村の施策による拡張工事の影響で減価償却率は平均を上回っているが、相応の補助金を一般会計から補填してもらっているため問題ないと思われる。
また、老朽管及び施設の更新については、平成26年度に村の財政再建が終わり、平成28年度、29年度と管路更新事業を行っており、今後も管路更新及び施設更新を行う予定である。しかし、一方で留保資金の減少が著しいので、その確保も踏まえて総合的に検討していきたいと思っている。

全体総括

当村の水道水は、白河地方広域市町村圏整備組合からの受水で100%まかなっているため、管路の更新のみを検討すれば良い状況となっている。今後、配水管及び配水池等の老朽化も進んでくると思われるので、管路の更新事業を優先的に終了させ、留保資金の確保に努めていかなければならない。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。